

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	-----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	学校企画課長 高橋 泰幸	電話番号	0852-22-5408
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	特別な支援のための非常勤講師配置事業
目的	(1) 対象 小学校の通常学級に在籍するLD、ADHD、高機能自閉症等のある児童 小・中学校の多人数の特別支援学級 (2) 意図 一人一人のもてる力を高め、生活や学習上の困難を克服し安心して学校生活を送れるようにする。
事業概要	市町村教育委員会と県教育委員会が協議の上、対象児童のいる小学校に特別な支援のための非常勤講師を配置する。 平成26年度より、小・中学校の特別支援学級の多人数の学級に対して、特別な支援のための非常勤講師を配置する。

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	非常勤講師配置時間数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		87,500	87,500	87,500	96,250	
式・定義	配置時間数		実績値	61,130	87,500	87,500	96,131		
			達成率		100.00	100.00	109.90		%
指標名			年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b)(千円)	259,008	257,317
うち一般財源(千円)	174,012	172,938

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<ul style="list-style-type: none"> 通常の学級の非常勤講師として、小学校100校に計100名を配置した。 特別支援学級の非常勤講師として、小学校5校に5名、中学校5校に5名、計10名を配置した。 平成26年度は、当初通常の学級に非常勤講師を配置する計画で目標値を設定していたが、新たに特別支援学級への配置を加えたため達成率を上回る結果となった。
--

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<p>(1) 通常の学級</p> <ul style="list-style-type: none"> 非常勤講師の支援によって、当該児童の学級の活動への関心や友達との関わりが広がった。 当該児童の実態に応じた支援を行うことにより、全体指導の中で当該児童へのきめ細かな指導ができ、当該児童が安心して学習に取り組むことができた。 校内研修において、児童の実態に合わせた課題提示等の実践事例を研修することで、教職員間で支援方法が共通理解され、当該児童の学習スタイルに応じたきめ細かな指導につながった。 <p>(2) 特別支援学級</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人の特性や状況に沿った支援を行うことにより、児童生徒が落ち着いた環境で学習を進めることができた。 突発的な行動や衝動的な行動があった場合に、個別の対応を行うことで児童生徒の安定を図ることに効果的だった。 交流学級の学習で支援を行うことで、学習意欲の向上や、交流学級児童生徒との交流を深めることができた。
--

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校の要望を聞いた上で非常勤講師の配置を行っているが、特別な支援が必要な児童生徒は多く、十分な対応ができないため苦慮している学校が多い。通常の学級については、1名の非常勤講師を配置しているが、複数配置を希望する学校がある。
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を必要とする児童の増加や多様な状況の児童への対応で教員の指導上の困難さや負担が増加しているため。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を必要とする児童生徒が安心して学校生活を送れるように個に応じた指導や支援が行えるような人員配置や校内支援体制の整備。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> 各学校の実態を十分に把握し、県全体のバランスを考慮しながら、より効果的な非常勤講師の配置を行っていく。 各校教員と非常勤講師が連携を密にして児童生徒の指導に当たれるよう、特別支援教育コーディネーターや非常勤講師を対象とした研修内容の充実を図る。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

--